

動作の表現と人物像の日中比較

—小説『三体』『七回死んだ男』の用例から—

宿利由希子(東北大学) 王睿来(韓山師範学院外国語学院) 羅希(広東技術師範大学) 揣迪之(仲愷農業工程学院)

1. はじめに

ことばと人物像(人となり)の関係については、老博士は「わし〜じゃ」、お嬢様は「わたくし〜ですわ」と話す、というような、特定の人物像と結びついたことば遣いである「役割語(金水, 2003)」の研究が進められ、すでにさまざまな言語との比較から日本語と人物像の結びつきの強さが示されている(山口, 2007; 鄭, 2007)。一方、悪者が「ニタリとほくそ笑む」のように、人物像によって動作がどのように表現されるかという、「キャラクタ動作の表現(定延, 2011)」に関する事例の比較研究は日露対照(宿利・カリュジノワ, 2019)以外見当たらない。

本研究は、日本語の動作の表現が、特定の動作主の人物像と結びついており、その使用可能範囲が中国語より狭いことを、小説における使用実態調査により示すことを目指す。そのため、ケーススタディーとして、中国のSF小説『三体』三部作と、日本のSF小説『七回死んだ男』の、中国語原文版および中国語翻訳版(以下中国語版)と日本語翻訳版および日本語原文版(以下日本語版)を観察し、動作の表現と動作主である登場人物の人物像の関係について日中比較を行う。

2. 調査概要

調査では、『三体』と『七回死んだ男』の中国語版および日本語版から、笑い方、泣き方、動き回り方という3種類の動作の表現を抜き出し、登場人物ごとにどのような表現が使用されているか比較した。その際、「笑った」「泣いた」などの、どのような登場人物にでも使えると予想される表現のみの使用例ではなく、ニュートラルでないと予想される動詞や副詞を伴う動詞の例を抽出した。辞書として『中日辞典(小学館, 1992)』『日中辞典(小学館, 1987)』を用いた¹。

なお、この2作品を扱うのは、両作品が日中両国で人気のある同ジャンルの作品であり、またどちらも現代の作品で原作、翻訳版ともに執筆された時代に大きな隔たりがないためである²。日本語版の頁数としては、『三体』三部作が合計1916頁、『七回死んだ男』が351頁と大きな差があるが、『七回死んだ男』には多種多様な登場人物の笑い方、泣き方、動き回り方の表現が現れており、分析に問題は生じなかった。それぞれの作品についての情報を表1に示す。『三体II: 黒暗森林』と『三体III: 死神永生』の日本語翻訳版は上下巻に分かれているが、著者や翻訳者、出版年に違いはない。また、『七回死んだ男』の中国語訳版のみオンライン書籍のため、引用時に頁数を示さない。

表1 調査に用いた小説原作と翻訳版の情報 ※作品名は日本語版のものを記す。

作品名	原作者名(原作出版年)	原作出版社	翻訳者(翻訳版出版年)	翻訳版出版社
三体	劉慈欣(2008a)	重慶出版社	立原透耶・大森望・光吉さくら・ワンチャイ(2019)	早川書房
三体II: 黒暗森林	劉慈欣(2008b)	重慶出版社	大森望・立原透耶・上原かおり・泊巧(2020)	早川書房
三体III: 死神永生	劉慈欣(2010)	重慶出版社	大森望・光吉さくら・ワンチャイ・泊巧(2021)	早川書房
七回死んだ男	西澤保彦(1995 ³)	講談社	馬傑(2017)	新星出版社

¹ 以下、中国語の表現は「“傻笑 shǎxiào (ばか笑いをする)”」のように「表現 ピンイン(辞書の意味)」の順に記す。

² 『三体』三部作はAmazon Japanの中国文学ランキングで上位を独占しており、その下には古典の『論語』や近代文学『阿Q正伝』が

² 『三体』三部作はAmazon Japanの中国文学ランキングで上位を独占しており、その下には古典の『論語』や近代文学『阿Q正伝』が続く(「amazon ランキング 売れ筋ランキング 中国文学」[<https://www.amazon.co.jp/gp/bestsellers/books/506986>] (2022/01/04 最終確認))。

³ 本発表では文庫版『新装版七回死んだ男』(講談社文庫, 1998)を使用する。

3. 調査結果

調査の結果、中国語版ではさまざまな登場人物の動作を表すニュートラルな表現として用いられるものが、日本語版においては登場人物ごとに使い分けられ、またその使い分けには動作主の年齢や性別、性格、職業、印象の善悪などが影響している可能性が示された。以下、笑い方の表現、泣き方の表現、動き回り方の表現の順に述べる。

3.1 笑い方の表現

中国語原文版において用いられた“傻笑 shǎxiào 〈ばか笑いをする〉”は、動作主が頭の切れる中年男性の警察官の場合「つくり笑いをする、つくり笑いを浮かべる」に、女の子の場合「くすくす笑う」に日本語訳され、「ばか笑いをする」や類義表現の「大笑いをする」と日本語訳された例はなかった。言うまでもなく「ばか笑いをする」と「つくり笑いをする」「くすくす笑う」は異なる動作であり、また中国語にはそれぞれの動作の表現（“假笑 jiǎxiào 〈作り笑いをする〉”、“窃笑 qièxiào 〈ひそかに笑う、くすくす笑う〉”）が存在する。そのため、翻訳者が、この警察官にも女の子にも「ばか笑いをする」という表現がふさわしくないと判断し、敢えて異なる意味の表現を用いたと推察される。警察官の例の中国語原文を(1)に、その日本語訳版を(2)に、また女の子の例の中国語原文を(3)に、その日本語訳版を(4)に示す。以下、該当表現に下線を付し、中国語版には発表者らによる直訳を（ ）に記す。

(1) “别误会，我要是直直地开过去不就完了，讲个礼貌打个招呼你还当成驴肝肺了。“大史露出他的特色傻笑，一副无赖相〔後略〕（「誤解しないでくれ。まっすぐ運転すればよかった。丁寧に挨拶したのに悪くとられるなんて」と言っ
て、大史は彼の特徴的な**ばか笑い**を見せ卑劣な表情を浮かべた。） [劉, 2008: 12]

(2) 「よしてくれ。まっすぐそのまま通りすぎりゃあよかったな。礼を欠いちやいけないと思って、わざわざ車をとめて声をかけたんだぜ。それをそんなふうにも悪くとるなんて」史強は独特の**つくり笑いを浮かべ**、ごろつきの顔になった。 [立原他訳, 2019: 71]

(3) 前排坐着一对情侣，男孩伏在女孩的耳边不停地说着什么，女孩不时地**傻笑**一阵，并用一个小片儿从纸杯中刮出粉红色的东西吃〔後略〕（前の列にカップルが座っていて、男の子が女の子の耳元でなにか話している。女の子は時々**ばか笑い**をし、紙コップからピンク色のものをこすり取って食べていた。） [劉, 2009: 352]

(4) 前の座席には若いカップルが座っていて、男の子が女の子の耳もとでずっとなにか話している。女の子はときおり**くすくす笑い**、小さな板のようなもので紙コップに入ったピンク色のものを削って食べていた。 [大森他訳上, 2021: 176]

また中国語の“微笑 wēixiào 〈ほほえむ、微笑する〉”は日本語版では「微笑む」に対応するが、性格が悪い中年男性が動作主の場合、「横柄な」のような否定的な修飾表現を伴わないにもかかわらず「にやっと笑う」と日本語訳された。「微笑む」と「にやっと笑う」はどちらも声を出さずに笑う様を表すが、印象に善悪の違いがあり、中国語にも“坏笑 huàixiào 〈にやにや笑う〉”という表現が存在する。そのため、「微笑む」という笑い方の表現が、性格の悪い登場人物にはふさわしくないと翻訳者が使用を避けたと考えられる。さらに、『七回死んだ男』日本語原文版において、八方美人でいい加減な若い男性登場人物の「薄ら笑いを浮かべる」という日本語が、“微笑 wēixiào”に中国語訳された例が観察された。このことから、中国語“微笑 wēixiào”がさまざまな動作主の表現として使える一方、日本語「ほほえむ、微笑する」は使用可能範囲が限定的であることが窺える。「にやっと笑う」の例を(5)(6)に、「薄ら笑いを浮かべる」の例を(7)(8)に示す。

(5) 维德微笑着点点头，“可以让莫妮尔去，我母亲的猫，不过它也得减肥一半才行。”（ウェイドは**微笑**んでうなずいた。「モニアを行かせるといい。母の猫だよ。それにしてもモニアの体重を半分まで減らす必要があるが」） [劉, 2009: 56]

(6) ウェイドは**にやっと笑**ってうなずいた。「モニアに搭乗を頼んでもいいな。うちの母親が飼っている仔猫だよ。もともと、モニアにしても、体重を半分まで減らす必要があるが」 [大森他訳上, 2021: 106]

(7) 「それは何か。おい」面白がるべきか恐れおののくべきか決めかねているみたいに世史夫兄さんは曖昧な**薄ら笑い**を浮かべた。 [西澤, 1995: 218]

(8) “喂！你这话是什么意思？”世史夫哥哥的脸上露出一種曖昧的**微笑**，让人看不明白，不知道他是兴致勃勃，还是有所畏惧。（「おい！それはどういう意味？」世史夫兄さんは興奮しているのか、恐れているのかわからない曖昧な**微**

3.2 泣き方の表現

泣き方の表現について, “大哭 *dàkū* (大泣きする)” は日本語版では「泣き叫ぶ」「泣きわめく」「泣きじゃくる」に対応する. 特に「赤ん坊みたいに」「幼児のように」という修飾表現を伴う場合, 中国語版で“大哭 *dàkū*”が使われる一方, 日本語版では修飾表現の使用だけでなく動詞も「泣きじゃくる」が用いられ, 「泣き叫ぶ」「泣きわめく」は使用されなかった. 「泣き叫ぶ」の例を(9)(10)に, 「泣きじゃくる」の例を(11)(12)に示す. (11)の動作主は中年男性の「父」だが, 息子である語り手は四六時中泣く父を情けなく思っている. 「幼児のように泣き叫ぶ」「幼児のように泣きわめく」でも「幼児のように泣く」様は伝わるが, 「幼児のように泣きじゃくる」のほうがさらに子供っぽく情けない印象が強まる.

(9) 所有的人都在欢呼中热泪盈眶, 许多人因激动而嚎啕大哭, 在历史上从来没有这样一个时刻 [後略] (すべての人々が歓声を上げて目に涙を浮かべ, 多くの人が興奮して声をあげて大泣きした. 歴史上こんな瞬間は今までなかった)

[劉 2008b: 261]

(10) 地球の人々は涙を流し, 歓呼の声をあげた. 感動のあまり大声で泣き叫ぶ人も多かった. 人類の歴史上, こんな瞬間ははじめてだった.

[大森他訳下, 2020: 183]

(11) それからの父の変貌ぶりは無残のひと言に尽きる. [中略] そして息子たちの前で幼児のように身も世もなく泣きじゃくるのである.

[西澤, 1995: 58]

(12) 从那以后, 爸爸的样子可以说到了惨不忍睹的地步. [中略] 不仅如此, 他还当着儿子们的面, 像个小孩子似的, 不管不顾地号啕大哭. (それ以来, 父の姿は見るも無残だったと言える. [中略] そして息子たちの前でまるで子供のように大泣きしていた.)

[馬傑訳, 2017]

3.3 動き回り方の表現

動き回り方の表現について, 中国語版では“流浪 *liúlàng* (さまよう)”や“转悠 *zhuànyou* (歩き回る)”など, また日本語版では「さすらう」「さまよう」「ぶらぶらする」「うろつく」などの表現が観察された. 特に印象の悪い観光客やホームレス, 不審者が動作主の場合, 日本語版では「うろつく」という悪印象を伴う表現が使われたが, 中国語版ではそのような表現は用いられず, どのような人物の動作としても使える表現⁴のみ観察された. “流浪 *liúlàng*”が「ぶらぶらする」と日本語訳された例を(13)(14)に, 「うろつく」が“转悠 *zhuànyou*”と中国語訳された例を(15)(16)に示す.

(13) [前略] 移民大量拥入悉尼, 虽然不让定居, 但就是在街头流浪也比住在移民村里强, 至少让人感觉仍然身处文明世界, 这使得城市人满为患. (シドニーには多くの移民が集まったが, 定住は許されていない. とはいえ移民の村に住むよりも街をさまようほうが良く, 少なくとも文明世界にいるような気分させるため, 街は混雑していた.)

[劉, 2009: 162]

(14) 住む家はなくても, ホームレスとして街をぶらぶらするだけで, 移民区に住むよりはまだ, 文明世界に身を置いている気分になった. シドニーはたちまち人口過密になり, [後略]

[大森他訳上, 2021: 285]

(15) 「怪獣なんかこの世にはいません. オダ君. 駄目よ. [中略] 可愛い男の子や女の子を見つけるとイケナイことをする悪いわるういオジさんがうろついているからです. とっても危ないからです. [後略]

[西澤, 1995: 20]

(16) 这个世界上没有怪兽什么的東西. 小田君, 你可能总看那些奇怪的动画片啊. 那是一个人, 是一个人哦. 他是一个只要看见可爱的小男孩小女孩就会对他们做不好的事情的超级超级坏叔叔. 他整天就在那里转悠, 所以那里十分危险, 十分恐怖. (この世界には怪獣なんかいません. オダ君, [中略] 彼は, かわいい男の子と女の子を見つけると, その子達に悪いことをする超超悪いおじさんです. 彼は一日中そこら辺を歩き回っているから, とっても危険で怖いです.)

[馬傑訳, 2017]

4. 考察

⁴ “转悠 *zhuànyou*” という動作自体, 無目的に歩き回るような, どちらかといえば否定的な印象を伴うものであるが, 「うろつく」のように「印象の悪い人物」や「不審者」などの動作主を連想させることはない.

第3節の調査の結果、中国語版ではさまざまな登場人物の動作を表す表現として用いられるものが、日本語版において登場人物ごとに使い分けられ、またその使い分けの要因が動作主の年齢や性別、職業、性格、印象の善悪である可能性が示された。この結果から、本研究で観察した日本語の笑い方、泣き方、動き回り方の動作の表現が、中国語に比べ特定の動作主の人物像と強く結びついており、表現の使用可能範囲が狭いことが示されたと言える。

さらに本調査の日中比較の結果は、「誘導的側面」と「重複的側面」という日本語の特徴に光を当てる。「誘導的側面」というのは、役割語を例にすると、老博士の台詞として「わし〜じゃ」ということば遣いを当てたり、「わたくし〜ですわ」ということば遣いを見聞きしてお嬢様を連想したりすることである。これは、前者では話し手や書き手などの発信者が、後者では読み手や聞き手などの受信者が、老博士なら「わし〜じゃ」、お嬢様なら「わたくし〜ですわ」と認識したり、発信したりするよう誘導された結果と考えることができる。また「重複的側面」とは、同じく役割語を例にすると、外見や人物描写から老博士やお嬢様だとわかる登場人物に、その必要はないのにあえて老博士らしいことば遣い、お嬢様らしいことば遣いを当てることを指す。これは、場合によって「老博士らしさ」「お嬢様らしさ」を強化することもある。

本研究で観察された「誘導的側面」について、たとえば“傻笑 shǎxiào (ばか笑いをする)”の日本語訳として、動作主が頭の切れる中年男性の警察官の場合「つくり笑いをする、つくり笑いを浮かべる」が、女の子の場合「くすくす笑う」が使用された。これは「ばか」ということばを避けようとしたためとも考えられるが、その場合「大笑い」や「大声で笑う」などの類似表現を使用することも可能である。にもかかわらず、日本語翻訳版では動作としても異なる表現が用いられた。これは単なる誤訳などではなく、動作主の人物像に合わない動作の表現の使用が日本語社会では避けられるからと考えることができる。言い換えれば、動作主の人物像にふさわしい表現を当てるよう誘導する力が、日本語社会ではより強く働くということである。

次に「重複的側面」について、たとえば「子供のように」という修飾表現があるだけで、すでに「子供のように」泣いたことが十分伝わるため、「泣きじゃくる」という子供っぽい泣き方の表現を用いる必要はないはずである。中国語版では“小孩子似的 xiǎo háizi shì de (子供のように)”があれば動詞が「泣き叫ぶ」とも日本語訳される“大哭 dàkū”であっても子供のように泣く様子が十分伝わる。ところが日本語版ではさらに「泣きじゃくる」という子供っぽさと結びついた動詞を使用したほうが自然な場合や、「泣き叫ぶ」「泣きわめく」などの類義表現では不自然に感じられる場合もある。この事例から、日本語では自然とされる重複的言語使用が、中国語では避けられる傾向にあると考えることができよう。

「誘導的側面」と「重複的側面」という特徴は、前述のとおり役割語にも見られる現象である。役割語はマンガや子供向けのSFドラマなどの「幼稚」な作品によく使われるという(金水, 2003: 11)が、人物像とことばの結びつきの強さに違いはあるものの、「その人らしいことば遣い」というのは日常的な会話でも使われており、ことば遣いにおいて「すべてのことばは役割語である」という指摘もある(定延, 2011)。本研究で見てきたキャラクタ動作の表現の例は、日常的に用いられるごく一般的な表現であり、フィクション作品に多く見られるものではない。そのため、役割語以上にノンフィクションの一般的な現象であることが認識しやすい。日本語社会では、我々が日常的に使用する動作の表現が、実は動作主の人物像と結びついており、それらが「誘導的」かつ「重複的」であるというのが本研究の主張である。

5. まとめ

本研究はケーススタディーとして、日中の小説で用いられた動作の表現と動作主体である登場人物の人物像の関係について比較調査を行った。その結果、本研究で観察した表現に関して、日本語の笑い方、泣き方、動き回り方の動作の表現が、中国語に比べ特定の動作主の人物像と強く結びついており、表現の使用可能範囲が狭いことが示されたと言える。さらに本調査の日中比較の結果は、「誘導的側面」と「重複的側面」という日本語の特徴に光を当てる。本研究は両言語の小説2作のみを用いて質的研究を行ったが、量的にはどのような傾向があるのか、今後さらなる調査が必要となる。

謝辞 本研究はJSPS 科研費 20K13056 の助成を受けたものです。

参考文献

- 金水敏 (2003). ヴァーチャル日本語 役割語の謎 岩波書店
鄭惠先 (2007). 日韓対照役割語研究 金水敏(編) 役割語研究の地平 くろしお出版 pp. 71-93.
定延利之 (2011). 日本語社会のぞきキャラくり 三省堂
宿利由希子・カリュジノワ, M (2019). 日露比較から見る日本語の笑い方の表現の特徴 日本語の研究, 15 (3), pp. 18-25.
山口治彦 (2007). 対照役割語研究への誘い: 役割語の個別性と普遍性 金水敏(編) 役割語研究の地平 くろしお出版 pp. 9-25.